

大滝ダム運用環境調査委員会

第5回委員会 議事要旨

開催日時：平成19年12月27日（木） 10:00～12:00

開催場所：KKR ホテル大阪（大阪市中央区馬場町2番24号）

出席者：

委員長 田中 哲夫（兵庫県立大学 准教授）
委員 井伊 博行（和歌山大学 システム工学部 教授）
委員 竹門 康弘（京都大学 防災研究所 准教授）
委員 矢田 敏晃（元大阪府立淡水魚試験場 場長）

1. 議 事

（1）調査結果の報告

第4回委員会で審議された調査計画に基づき実施した今年度の調査結果の中間報告がなされた。

（2）H20 暫定運用方法の提案

H19 の暫定運用の検証結果を基に H20 の暫定運用方法の提案がなされた。

（3）来年度以降の調査計画

これまでの検討結果及び暫定運用が延長されることを考慮して、今後の調査計画及び委員会の運営について提案がなされた。

2. 審議内容

（1）これまでの調査結果について

- ・暫定運用期間中にもかかわらず、大滝ダムによる SS、プランクトン、電気伝導度等への影響している形跡が認められた。
- ・今年度の貯水位降下については、水温低下やアユの冷水病の発症など、大きなダメージを与えるような影響は認められなかった。
- ・調査結果については、経年的な位置づけを明確にするとともに、各項目間の対応関係がわかるよう整理する。
- ・個別の結果については、最低限仮説でも構わないので、目的に沿った考察を行う。

（2）H20 暫定運用方法について

- ・事務局案で了承される。

（3）来年度以降の調査計画

- ・アユ調査についてはサンプル数が少ないため、今後も継続して調査を実施する。
- ・本格運用後は最低限 2～3 年間は継続して調査を実施してほしい。

3. 今後の予定

次回は平成20年5月を予定。